

年 組 名前:

問1

水によって交流を深めた市町村名と県名を、教えてください。

県名:

県名:

問2

この交流は、何を目的としていますか。

.....
.....
.....
.....

問3

今回の交流では、何を実施しましたか。また、今後は何を実施する予定ですか。

今回:

今後:

問4

この活動について、あなたはどのように考えますか。感想を書いてください。

.....
.....
.....

水でつながる住民交流

道志村と横浜市の住民有志でつくるグループ「道志ハッピープロジェクト」は、両市村を結ぶ食の循環事業や、村の活性化に取り組んでいる。横浜の住民が毎月、遊休農地での田植えやシタケの原木づくり、ハイキングなどを通じて、村の豊かな自然を体感するとともに、村民と交流。プロジェクトを運営する太田ハッピープランニング（東京都世田谷区）の太田久士代表は「水でつながる両市村の交流を、地域の活性化につなげたい」と話している。

道志 田植えやハイキング 横浜

食の循環、活性化めざす



遊休農地で田植えを体験する参加者 ー道志村

プロジェクトは両市村の住民を中心に、昨年5月にスタート。過疎が進む村の活性化や、水源地と都市部を結ぶ食の循環の構築、子どもへの食育を目的としている。横浜の住民は年間3千円の会費を払い、会員として登録。会費を道志に招き、これまで4、5の両日には、村内の遊休農地を活用し、田植えを実施。5日は両市村の住民ら約50人が集まり、福島県産の「ひとめぼれ」にルーツがある「道志米」を丁寧に植え付けた。田植えの後には、田んぼで宝探しや綱引きを準備。参加者は泥まみれになりながら競技を楽しんでいた。参加した横浜市の中学生広瀬蓮さん(13)は「小学生の時に、横浜の水は道志村から流れてきていると勉強した。道志村に来て、自然が豊かな場所だと感じる事ができた」と笑顔を見せた。今後は蜂蜜の採取体験や魚のつかみ取りイベントを開催する予定という。太田さんは横浜でビールメーカーの創業に携わり、ビールの仕込み水として道志の水を使用。村を頻繁に訪れる中で道志の魅力に引かれたという。2018年に退社し、19年に太田ハッピープランニングを立ち上げた。太田さんは「過疎や山林の環境の変化、耕作放棄地の増加などは全国的な課題」と指摘。「水でつながる道志村と横浜市の住民が協働し、地域の課題解決と活性化に向けた取り組みを続けていきたい」と意気込みだ。

(2022年6月18日付 山梨日日新聞 21面)